

公益財団法人千里リサイクルプラザ令和元年度第1回理事会議事録

1. 開催日時 令和元年5月14日(火)午後2時00分から同3時00分まで
2. 開催場所 吹田商工会議所会館 2階 第1会議室
3. 理事現在数 9名
4. 理事定足数 5名
5. 出席理事数 6名

西川 俊孝 門脇 則子 山口 耕右 小南 康隆 土屋 正春
原田 勝

6. 欠席理事 三田 和司 柴田 仁 安田 博明

7. 出席監事 藤原 忠

8. 傍聴者 1名

9. 会議の目的事項

決議事項 第1号議案 平成30年度(2018年度)公益財団法人千里リサイクルプラザ事業報告

及び決算の件

第2号議案 令和元年(2019年)定時評議員会招集の件

10. 会議の概要

(1) 議長の確認

冒頭で天野美晴参事が司会となり、本日の議長は定款第37条の規定により西川俊孝理事長が務める旨を報告した。併せて本理事会より回数及び呼称を会計年度ベースに変更する旨の報告を行った。

(2) 定足数の確認

議長は審議に先立ち、本理事会が令和改元後の第1回開催であることを述べるとともに、出席理事数が6名で定足数を満たしており、本日の理事会が有効に成立していることを報告した。

(3) 議案の審議状況及び議決結果

① 第1号議案 「平成30年度(2018年度)公益財団法人千里リサイクルプラザ事業報告及び決算の件」

議長は第1号議案を議題とし、事務局にその説明を求めたので、事業報告については上川善一郎主幹と安田典彦主幹が、計算書類については中島佳子主査がそれぞれ議案書を基に順次説明した。

説明が終わり、議長が質問及び意見を求めたところ、次のような質疑応答があつた。

(原田理事)

平成30年度より募集を始めたボランティアの施設案内専門員は何名いるのか。

(安田主幹)

平成30年度当初11名であったが、期中の増減の結果、平成31年度は13名でスタートしている。登録者には必要な研修を受講の後に施設案内ボランティアとして活躍いただいている。元来、施設案内は、市民研究所のプロジェクトチームの一つ「効果的な施設案内 PT」として活動していたがこれを解散し、新たに平成30年度よりボランティアとしての活動に変更したものである。当初はメンバー全員がPTからの移行だったが、その後、新たな参加者を迎えていた。

(原田理事)

當時、何名かが活動されている状況なのか。または個々の施設案内募集に応じて参加するのか。

(安田主幹)

学校を含め施設見学の人数等申込内容に応じて、万遍なく担当してもらうように施設案内員の手配及び配置を行っている。常時というわけではない。

(小南理事)

学校への環境学習支援については、吹田市の小学校全校が参加しているのか。取組みのない小学校もあるのか。

(安田主幹)

環境学習支援については、市民研究所のPTが学校へ出向き活動している。例えば吹田市内の全小学校36校の中、それぞれ年間8回から10回程度開催されているエコクラブの10校に対しては市民研究員が足を運んで環境に関わる授業を実施している。また全小学校を対象とした呼びかけに応じエコクラブ以外の要請依頼についても対応している。他にも小学4年生が環境学習でくるくるプラザの見学に訪れた際に、施設内において紙すき、風呂敷、おもちゃ作り、工房等を体験する取組みも実施している。

(小南理事)

そういう活動に参加していない小学校もあるのでは。参加している学校には偏りがあると見受けられるが、不参加校に対してはどういう取組みをしているのか。各小学校で環境学習に対する取組姿勢に温度差を感じる。吹田市全小学校に対し、環境学習の関心を高めるような呼びかけを行うことが必要ではないか。

(安田主幹)

プラザとしては、吹田市の小学校校長会で環境教育プログラムを紹介するなどの取組みを行っている。また吹田市内には、プラザ以外にも環境教育に熱心な多くの環境団体や企業があり、それぞれに学校への出前授業等を実施しており、それを活用している小学校もある。こうした活動も参考にしながら、プラザとしてもさらに多くの小学校へ呼びかけを行い活動を広げていきたい。

(理事長)

プラザや他の環境団体、企業、また小学校の自主的取組み等、環境学習の方策は多岐に亘っており、その成果をプラザが実施している環境学習発表会で披露してもらうということも意義深いと考えている。

質疑応答に続き、本議案の採決を諮ったところ、満場一致をもって第1号議案は承認可決された。

②第2号議案「令和元年(2019年)公益財団法人千里リサイクルプラザ定時評議員会招集の件」

議長は第2号議案を議題とし、事務局にその説明を求めたので、天野美晴参事が次のように説明した。定時評議員会を招集するため定款第18条第1項の規定により理事会の議決を求める。

開催日時：令和元年5月29日(火)午前10時00分

開催場所：吹田商工会議所会館 2階 第1会議室

目的である事項：(1)平成30年度(2018年度)事業報告及び決算の件

(2)評議員3名選任の件

(3)理事8名選任の件

(4)報告事項

ア 平成30年第4回理事会決議等について

イ 平成31年第1回理事会決議等について
ウ 令和元年度第1回理事会決議等について

と説明した。

説明が終わり、議長が一同に採決を諮ったところ、満場一致をもって第2号議案は原案どおり承認可決された。

次に議長がその他報告事項としてプラザ中期計画の2年目となる平成30年度の進捗状況の説明を求めた。

上川主幹が、その他報告事項資料「(公財)千里リサイクルプラザ中期計画(平成29年度～平成33年度)の実施状況について」を元に、基本方針に基づく施策計画毎に重点取組みや課題を取り上げ、具体的な取組みの進捗状況と自己評価について報告した。

報告が終わり、議長が質問及び意見を求めたところ、次のような意見の表明があった。

(原田理事)

小学4年生のプラザ見学後の施設内での体験は、学校内で受講する環境教育と同様に重要で有用であると考える。多くの児童にそういう体験の機会を与えられるように、私も校長会の場で話をていきたい。

(安田主幹)

吹田市は生徒数が過大な小学校が全体の三分の一と多く、プラザでは受入能力を考慮して、1学年100名以下の小学校に限って呼び掛けを行い体験の場を提供している。体験は布、木工、紙すき、風呂敷、おもちゃ作りの5プログラムで、参加児童はその中から選択することになっている。

(土屋理事)

プラザのような環境啓発施設は現状、全国的に難しい時期を迎えており、それぞれに創設時から時を経て事情が変わり、ごみを分別回収すればそれで事足りる今日、今後のごみ問題をどう考えていけばいいのか。地域的に考えると、例えば滋賀県は琵琶湖を抱えていることもあり、環境問題は県民や行政の身近な問題であり、予算や人の確保が得やすい。一方、事情の異なる大阪では1970年の万博の頃に立ち返るべく、次回の万博で環境問題へ取り組むということも考えられているようだが、全体の合意形成には至っていない。

視点を変えて、SDGs(持続可能な開発目標)についてお話ししたい。国連サミットで採択されたSDGsの17項目に基づき、日本の取組みを具体化・拡充したものが作成され、その中で特に環境に関わるものとして「省エネ・再エネ、気候変動対策、循環型社会」が提起されている。これをプラザの特性に合わせ、子どもの教育に注力して、この考えを展開してはどうかと考えている。また、これとは別にISO26000ではSDGsに類似した「やさしい社会的責任の概念」の国際規格が制定されている。この中にも環境という項目が掲げられている。このように現代社会においては、全世界的に環境問題は外せない。特にこれを子どもを対象として体系化し、広めていくことが、プラザにこそできる取組みではないか。また各位の意見や考えをお聞きできればと願っている。

以上をもって議案の審議等を終了し、議長は午後3時00分に閉会を宣言した。

この議事録が正確であることを証するため、定款第39条第2項の規定により、理事長及び監事は記名押印する。

令和元年5月14日

理事長 西川俊泰

監事 藤原忠

捺印